

(様式第1号)

## 自己評価及び外部評価結果票

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4190100240		
法人名	医療法人長生会		
事業所名	ケアホームひょうたん島		
所在地	佐賀市久保田町大字久富2852番地		
自己評価作成日	平成29年10月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp">www.kaigokensaku.mhlw.go.jp</a>
-------------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀県佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成30年3月15日	外部評価確定日	平成30年5月11日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>入居者様の健康管理、疾病予防、発病時の対応については、関連医療機関との連携により万全を期しています。ボランティアの方に来ていただいたり、地域の行事に参加し、交流を深めています。</p>
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<p>事業所は田園や住宅地の中にあり、小学校の通学路にも近く、登下校する小学生に出会うこともある。利用者が散歩しながら近所の方と挨拶を交わしたり、民家の庭に咲いている花や家庭菜園を見ながら「なつかしいね」の会話の中に、これまで暮らしてきた生活環境を思い起こさせる。開設5年目を迎えている事業所は、当初から理念の一つに掲げている「周辺地域との結びつきを大切にする」を実践している。地域の清掃活動に職員も参加したり、認知症支援についての相談にのるなど、地域と積極的に関わりをもっている。</p> <p>日頃の支援にあたっては、利用者を「人生の先輩」として敬い、尊厳を大切にし、利用者の生活リズムに合わせた日常生活の支援である。また、医療面のバックアップにも万全を期しており、利用者や家族にも安心感をもたらしている。調理専属の職員の雇用は、それだけ、利用者や職員とのふれあいの余裕を生んでいる。</p> <p>事業所内は、まだ新築の木の香りがあり、静かで、明るく、清潔感がある。居間には畳の間もあり、利用者が思い思いに過ごせる場となっている。各居室はベッド以外は家族の協力で馴染んできた品や、思い出のもの、好みの物などで整えられ、ゆっくりと落ち着いて過ごせる場所となっている。</p>
---

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的な会議で理念を繰り返し伝え、全職員が共有し実践できるようにしている。	事業所開設時に「地域との結びつきを大切に」することを理念の一つに掲げている。理念は職員がいつも目につく所に掲示してある。毎月の定例の会議の時に唱和しながら確認している。また、管理者が具体的に指導もしている。職員は理念を意識しながら利用者の支援にあたっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の途中で挨拶をしたり、声かけを行っている。また、回覧板などに記載されている町内の催事に参加やボランティア慰問の受け入れを行っている。	地域の自治会に加入している。自治会長や回覧板によって地域の情報を得て、利用者と共に地域行事に参加することもある。職員が地域のクリーンデー、河川除草作業や公民館清掃に参加する。認知症支援の相談に応じる、利用者の散歩時に出会う地域の方と挨拶や言葉を交わすなど地域とのつながりを大切にしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	在宅で認知症の人の介護に取り組んでいる家族からの相談に応じて、認知症の人の理解を促して具体的な支援の方法を指導している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を定期的に関き、当施設の取り組んでいる内容について報告し、そこでの意見を実際のサービスに活かしている。	利用者の暮らしの様子、行事の具合的な実施状況、課題など率直に公開している。報告後の質問や意見がそれぞれの立場から出され、活発な会議となっている。より質の高いサービスの提供や祭りや地域のスポーツレクに参加するなど運営に活かされている。会議には職員2人は必ず参加し、定例会議で内容の共有化を図っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	法人全体で連携を深めている。担当地区の包括支援センターとは密接に連携をとり、支援者の情報や受け入れ、研修会への参加、運営推進会議への参加など協力関係を築いている。	運営推進会議の開催時だけでなく、地域包括支援センターの研修会や見守りネットワークへの出席等を通じて、行政の担当課とは相談や課題を共有する関係が築かれている。介護保険関係の法令改正に関する最新の情報は、法人を通じて得ている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止にはグループ全体で取り組んでおり、職員はよく認識している。身体拘束はない。	全職員が、これまでの学習や外部研修、事業所独自の計画的な勉強会や諸情報等から、身体拘束のないケアについての認識は高い。これまでに身体拘束の事例はない。玄関は日中は開放しており鍵をかけていない。利用者の出入りは自由で、見守り支援している。言葉による拘束も無いように留意している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	機会を設けて、高齢者虐待防止関連法についての研修を行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	機会を設けて、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度についての研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結時はもとより、家族には普段から希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	希望などを気軽に伝えて頂けるよう、面会時に声をかけるよう心がけている。また、意見箱を設置し、意見を出しやすいよう配慮している。	ご意見箱を置いたり、利用開始時に苦情相談窓口についても説明をしているが、面会時に直接に顔を合わせながら意見や要望を聴いたり、相談を受けている。家族も話しやすさを十分に感じている。パットの使用料金についての相談があり、支援の参考にしたのは一つの例である。	家族アンケートにあった就寝時の着替えについての要望は、家族の理解も得ながら再検討を期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	会議を月に1回、必要がある場合はその都度開いている。職員の意見を活発に交換し、ケアに取り入れている。	全職員が意見や要望を出し合っている。年代や経験年数にとらわれることなく、より良い支援や運営を求めての考えである。定期的な会議の時だけでなく、随時に意見が交わされている。時候に合わせての行事や外出先の決定、ケア内容に関すること、職場環境づくりなど、職員の気づきやアイデアが活かされている。代表者や管理者は、職員の意見によく耳を傾けている。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績により、仕事を任せるとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的な勉強会はもとより、日常の業務の中で職員が学べるよう、指導できる職員配置している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営者は、機会を捉えて職員を研修会に出すなど交流の機会を作っている。		

## II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、本人に一度ホームに来てもらっている。その際に、本人の要望などを聞いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談を受けたら、可能な限り、ホームに来てもらっている。その際に、本人の状態や家族の要望などを聞いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けたときに、現在の状況をできるだけ詳しく聞き、別のサービスが必要だと思われる場合には、そのサービスを紹介している。必要に応じて、具体的な施設を紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のされていた仕事の話などを聞き、入居者様の得意分野のことを教えていただき、入居者一人一人が活躍する場面を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	夏祭りや誕生会など、行事への参加を声かけし、本人と家族の絆を大切に、共に本人を支えていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族にも協力してもらって、馴染みの場所や関係の継続に努めている。	入居時に本人や家族、関係者から馴染みに関する情報を集め、これまでのくらしや生活環境などの把握に努めている。田園風景が広がる農道を散歩すると「懐かしい」、「前と変わらないね」と言う利用者もいる。以前は、買い物に行っていた店にも出かけていたが、最近では高齢が進み、出かけることがない。自治会長の世話で大正琴ボランティアの訪問も実現し、知っている曲には手拍子や歌声も出ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のいい入居者同士の交流を促すため、席順等に配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用(契約)が終了しても、必要があれば支援を行う。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居時の情報収集は勿論、入居後も本人や家族の意向は機会のあるごとに聞いている。	利用開始にあたっての諸情報や入居後の職員との会話、行動、表情などからも本人の思いを察している。そして、本人の気持ちや意思に任せた支援を心がけている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前の情報収集や、随時本人の病歴や生活歴、ADLの状況を詳しく聞いている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	家族の意見を必ず聞き、意見や要望を計画書に反映している。	利用者や家族の意向を活かし、職員の気づきやアイデアを取り入れた計画である。課題も細かいところまで具体的に把握されている。全職員で検討し、具体的に実現可能な支援内容が画されている。担当者会議には、家族も参加して検討されている。評価、見直しも、定期的に或いは随時、状況の変化に応じて、きちんと行われている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者個人個人のケース記録を作成し、よく観察する等して記録することを心がけている。細やかな記録を残している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の体調が悪化し、治療が必要な場合であっても、医療連携体制等により、治療を受けながら可能な限り入居を継続している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり、運営推進会議に地域の自治会長や民生委員に来てもらうなど、協力してもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の意向に応じて、それまでのかかりつけ医の診療を継続している。	利用者と家族が希望する病院での受診を優先しているが、母体でもある協力医療機関をかかりつけ医としている。協力医療機関とは24時間対応できる体制にあり、週2回の定期的な訪問診療、訪問看護が行われている。専門科の受診は家族の協力を得ている。歯科医の訪問診療と併せて、家族も医療面や健康維持に安心感をもっている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携をしている訪問看護の看護師と、随時情報交換をし、必要な支持をもらっている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	状態が安定した時点で、退院にむけた話し合いを行う。関連病院の場合は特に、入院時の情報提供や早期退院に向けた話し合いが容易であり、協力関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応の指針を作成し、入居時に確認を取っている。必要があれば、随時繰り返して説明し、変更があればすぐに対応している。	指針をもとに利用開始時に納得のいく話し合いがもたれている。家族の希望で、これまでに2件の看取り介護の事例がある。本人と家族の意向を確認しながら家族、主治医、職員等の関係者が状況に応じて度々話し合いを持ち、支援が行われている。現在も住みなれた所で最期を送りたいという本人と家族の希望で、看取り介護中の利用者への支援が続けられている。主治医も、毎日往診にみえている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の救急救命の研修は定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、防災避難訓練を行っている。訓練については、夜間を想定した訓練や消防署の指導の下での訓練も行っている。	自治会や消防団、近所に協力を呼び掛けて、夜間の火災を想定した避難訓練を、年に2回行っている。地震、大雨、水害等の自然災害に対するマニュアルも備えている。飲料水、非常食の備蓄もしている。	地元消防団にも協力を要請しているが、訓練にあたっては諸事情で参加してもらっていない。避難訓練日以外の都合のつく日や運営推進会議の際に出席を要請する等で、事業所の防災対策を理解してもらうことも考えられる。地域との協力体制についての再検討を期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者は、「人生の大先輩である」と言うことを機会をとらえて繰り返し話し、尊厳を保つよう敬いの気持ちを忘れないようにしている。	理念にも「その人らしさの尊重」とあるように人としての尊厳の尊重を支援の基礎にしている。ミーティングや毎月の会議で具体的に確認している。外部研修や独自の勉強会でも言葉かけを含む接遇について研鑽している。ホーム便りに使用する個人写真の掲載についても家族の了承を得るなど、プライバシーの確保についても十分な配慮がみられる。	

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の入居者との会話の中で、選んでもらう場面を意識してつくり、意見を聞いている。担当職員を中心に個別に対応している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合や決まりを優先するのではなく、入居者の気持ちを優先にしたケアを心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者一人ひとりに整容道具を用意しており、職員も個性を大切に服装をさりげなく支援している。出張理美容を希望する人、外部の理容室を利用する人など、希望に応じて援助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人一人の嗜好に応じて、メニューを変えている。利用者の状態に応じて、食事の準備や後片付けをしてもらっている。	職員も利用者と同じ食事を一緒にの食卓についての食事である。さりげない心配りの支援でもある。献立は管理栄養士が嗜好や利用者の状況に配慮して作成している。調理専用の職員を雇用しており、利用者にも好評な食事である。配膳や食事介助等の際には、職員が声をかけながらの支援である。食事後、食べ終わった食器を一つにまとめている利用者もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の食事摂取量は記録している。個人の嗜好に合わせて、メニューを変えることもある。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者一人ひとりの自立度に合わせて、毎食後の歯磨きと口腔ケアを支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	入居者一人ひとりの排泄チェック表を作り、排泄パターンの把握をしている。おむつ使用者も日中はトイレに誘導している。	一人ひとりの排泄の習慣やパターンが把握されており、尿意がある時にトイレに行くことができるように、本人のリズムに添った支援を心がけている。おむつ使用の方も数名いるが、できるだけトイレで排泄ができるように支援を心がけている。おむつ量の軽減がみられた利用者もある。	



自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日3時にティータイムを行い、水分補給をしている。入居者の状態に応じて、四肢の運動や散歩等も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の希望に合わせて援助している。入居者の要望によっては16時まで対応し、時間も本人のペースを尊重している。	週2回の基本的な入浴日があるが、お湯の準備は毎日できており、希望する方は何時でも入浴ができる。着替えなどの準備も、氏名を書いて、脱衣場にいつでも用意がなされている。入浴順や入浴時間に決まりはなく、利用者におまかせである。寒い時期は、ヒーターを利用して、脱衣場を室温と同じにするなど、ヒートショックの防止に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	寝つきの悪い方には居間でお茶を飲んでもらったり、話し相手になったりして気持ちを落ち着かせ、ゆったりとした気分で眠れるように援助している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の管理はホームで行い、その都度職員が手渡し、服薬を確認している。薬の内容は、処方されるたびに記録し、内容を把握している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者の持てる能力や希望に応じ、洗濯物を干したり、畳んだり、食事の声かけなどの役割を持ってもらい、ご自分の仕事と認識して頂けるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望に応じて、外出の支援をしている。散歩に出ることにより入居者の心の安心を図る場合もある。	事業所周辺は民家も多く、田園にも面している。車の通りも少なく散歩にも適している。時候をみながら近所の方との交流や気分転換、生活リハビリを兼ねて日常的に散歩に出かけている。「外に出たいね」との利用者の声があり、早速、職員と散歩に出かけた方もあった。近くの森林公園まで外気浴や花見に行くこともある。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は行っていないが、ホームの支払いがあるときは入居者と一緒に支払いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価 (事業所記入欄)	外部評価 (評価機関記入欄)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の方が手紙や電話を使いやすいように日常的に言葉かけを行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレの表示を手作りで作成し、居間には手書きのカレンダーを設置して季節感を感じられるよう、家庭的な雰囲気に配慮している。	木の香りが残っている室内は温かさと静けさがあり、どの空間も明るい。掃除も行き届き、清潔感がある。居間には畳の間があり、昼寝や横になっての休息に利用されている。広い窓からは、自然の光が差し込み、空調とあわせて快適である。窓の下には、利用者が育てている花壇も見え、季節の花が咲いている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下を含む共用空間を広くとり、応接セットや食堂など、入居者が好きな場所を選べるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室は広くとり、家具などの持ち込みは積極的に受け入れている。布団やベッドも持ち込みと貸し出しを選べるようにしている。入居者の写真など、馴染みのものを持ち込んでもらっている。	ベッド以外は家族の協力で生活に必要な物、馴染みの品で各居室がその方を思わせる構成になっており、ゆっくりと落ち着いた空間になっている。テレビ、整理用のたんす、座椅子、鏡、趣味の手芸等の稽古道具、その他、いろいろな物が見受けられる。家族の写真やひ孫からの手紙、ご主人の位牌等の家族との絆に心を癒されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	食堂の手洗い洗面台は、椅子に腰掛けたまま使用できるように低くなっている。台所の流しや調理台なども適当な高さに完備している。物干し場もバリアフリーになっており、浴室の床は滑りにくい材質になっている。		

V. サービスの成果に関する項目(目標指標項目)アウトカム項目)(事業所記入)  
 ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。  (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。  (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。  (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。  (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。  (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。  (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印をつけてください	
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
			3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
			3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない